

## 国際交流活動実施報告書

報告者： 環境デザイン学科 橋本潤

プロジェクト名: アジアのくらしプロジェクト ラオスプログラム2023

期 間： 2024年2月22日（木） ～ 2024年3月2日（土）

場 所： ラオス（ビエンチャン等）

参加者： 学生：環境デザイン学科  
3年生 児玉睦 高野凜々子 水谷優美 山田彩夏  
大学院環境デザイン研究領域修士課程  
1年生 川村すみれ 黒原真希  
2年生 吉村友 計7名  
教員：岸本章教授 橋本潤准教授 久志本瑠花副手

概要・背景： 近年、開発が進み急激に変化しているラオスの生活に焦点をあて、その伝統や習慣を活かしつつ、今後の暮らしについてデザイン提案を行うプロジェクトである。ラオス国立大学建築学部との協働により、環境デザイン学科3年生・大学院環境デザイン研究領域修士課程の学生を対象にフィールドリサーチとワークショップを行った。

### 報 告： ■フィールドリサーチ

2月22日（木）～2月26日（月）

ビエンチャンと近郊にて住宅・寺院・市場・公共施設など、生活に関わる多様な場所をラオス国立大学建築学部の学生と共にリサーチした。

ビエンチャン近郊の農村（ハースワン村）にて、両校の学生が1軒の住宅でホームステイを行った。1泊だけではあるが、食事を一緒に調理するなど実際の生活の一端を体験するホームステイの実施は、プロジェクトの肝であり、ラオスのくらしを知る上で有効であると考えている。

### ■ワークショップ

2月26日（月）～2月29日（木） ラオス国立大学建築学部の施設にて

多摩美（7名）・ラオス国立大学（10名）の学生がフィールドリサーチを基にテーマを定め、3グループの混合チームに分かれてデザインを検討した。実質3日間でテーマ設定からデザイン提案までを行い、4日目にプレゼンテーションを行う、なかなかハードなスケジュールである。日本語・ラオス語・英語が飛び交う形でコミュニケーションを取りつつ、スマートフォンの翻訳機能を駆使する様子が時代を感じさせる。

ワークショップ最終日に両校の教員（多摩美2名・ラオス国立大学10名程度）によるプレゼンテーションの講評が行われた。各グループのテーマは「メコン川に浮かぶバヴィリオン」「都市のごみ収集システム」「都市のシェアキッチン」というようにバラエティに富んでおり、限られた日数の中、社会的な課題や可能性について、システムまで踏み込んだ提案が見られた。講評後は親睦会が開催され、学生同士の名残惜しい様子が印象的であった。

### ■総括

ラオスの学生と1週間以上を共に過ごし、実際の生活の一端を経験することで、これから学生がデザインを考える際に、新しい思考や視点が生まれことを期待している。異文化に直接触れて様々な学びを得た様子は、学生の言動や報告書からも強く感じる。

ラオスの学生にとっても、日本の学生の視点は新鮮で、自国の文化を複眼的に捉える機会になった様子である。ラオス国立大学からは、2024年度以降の発展的な継続や大学間協定を強く要望され、2017年度にスタートしたプロジェクトが先方にとっても意義あるものへ育っていることを実感する。

■フィールドリサーチ

1. ビエンチャン市内：ラオスの首都 ラオス国立大学の学生と共にリサーチ

公共交通が少なく気温も高いため、移動は基本的に車



都市部の戸建住宅（大学生の個室）



EVに進化したトゥクトゥクに乗車（配車はアプリのみ）



市場（好きな果物を選んでシェイクにする）



テキスタイル工房

伝統的な技術を生かした現代的な製品（作品）を制作



ベトナム戦争におけるラオスの様子と、不発弾等による影響や、そのサポートの取組を紹介する施設



開業前の鉄道駅（ラオス国内の鉄道は2021年に初開通）



ワット・シーサケット（ビエンチャン最古の寺院）



複合施設内のワークスペース



木工家具店舗



メコン川にかかる国境の橋 橋の中央まで行くことが出来るが、徒歩で国境は超えられない（対岸はタイ）



学生・教員を交えた夕食会 ラオス式焼肉シンダート  
この他にも多くの食事を共にした



## 2. ハースワン村：ヴィエンチャン近郊の農村 ホームステイを実施

製塩場 岩塩から製塩



伝統的な高床式住居のキッチン（2階）  
壁は竹で編まれていて非常に風通しが良い



寺院で法話を聞く  
ちょうど大きな祭りが開催中で様々な行事を体験した



夕食の支度を手伝う 鶏を絞めてスープなどを調理



ホームステイをした住宅



ホストファミリーと共に



■ワークショップ：ラオス国立大学建築学部施設にて実施

各自興味のあるテーマを出し合いグループを決定



3グループに別れてディスカッション



実質3日間でデザイン提案を行う



学生のスケッチ



プレゼンテーション ラオス語と日本語で行われた



関係者の記念撮影 日本へ留学していた教員も多い



●ワークショップの成果については別途資料を参照